

障がい者作品展が開催されました

令和3年12月3日から12月9日の障害者週間に合わせて、市役所1階多目的スペースで、障がい者作品展が開催されました。障がいのある方による絵画や手芸、工芸、書道など約200点の個性あふれる作品が展示され、会場を訪れた方からは、「素敵な作品に心が和んだ」「自分もがんばろうと元気をもらった」などの温かいメッセージをいただきました。



市役所1階多目的スペースでの障がい者作品展



来場者から寄せられたメッセージ

感染された方やワクチン未接種の方に思いやりを

新型コロナウイルス感染症については、いまだ予断を許さない状況が続いています。

感染された方やその家族を特定するような行為や、感染者やエッセンシャルワーカーへの誹謗中傷が、今もSNS上などさまざまな場面で起きています。

こうした行為は、検査のための受診や、保健所への正確な行動歴・濃厚接触者の情報提供をためらわせるなど、感染拡大の防止にも支障をきたす恐れがあります。感染症は誰もが罹患する可能性があり、人権に配慮した、思いやりをもった行動をとることが大切です。

一方、3回目のワクチン接種が推奨される中、ワクチンハラスメントも問題となっています。

ワクチン接種を受けるか否かは、感染症予防の効果と副反応のリスクの双方について理解した上で、自身の意思で決めるものです。また、持病やアレルギーなど、さまざまな理由からワクチンを接種できない方もいます。

接種をしていない方に対して、接種の強制や、学校・職場等における不利益な取り扱いなど、ワクチン接種の有無による差別をしないよう心がけましょう。



人権Letter

No.28
令和4年3月
発行

— 法務省 人権啓発キャッチコピー — 「誰か」のことじゃない。 大垣市 市民活動部 人権擁護推進室

東日本大震災に起因する偏見や差別をなくそう

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、被災地域が東日本全域に及び、甚大な人的・物的被害をもたらした未曾有の大災害でした。また、地震と津波により発生した東京電力福島第一原子力発電所事故により、被害はより深刻なものとなりました。11年経った今でも多くの人々が避難生活を余儀なくされています。

このような中、原子力発電所事故に伴う偏見や差別が今なお起きています。

原発事故が生んだいわれの無い偏見・差別

原子力発電所事故により放出された放射性物質は、福島県をはじめ東日本の広範囲に拡散し被害をもたらしました。この被害による福島県からの避難者の中には、避難先で原発事故や放射線に関連して根拠のないうわさや偏見により差別を受けた人たちもいます。

被災児童生徒に対するいじめは、全国的な問題になりましたが、適切な対応がされなかった事例もありました。こうした事態を受け、平成29年4月に、文部科学大臣は被災児童生徒へのいじめの防止についてメッセージを出しました。

東日本大震災により被災した児童生徒又は原子力発電所事故により避難している児童生徒へのいじめの防止について(文部科学大臣メッセージ) 抜粋

(保護者・地域住民の皆様へ)

子供たちは、親や地域の大人の言動を見ています。被災児童生徒へのいじめの背景の一つには、避難されている方々への誤解や、被災地の状況や放射線に関する理解不足からくる、大人の配慮に欠ける言動があるとも考えられます。まずは大人である私達が、被災された方々、故郷を離れて生活をされている方々の思いを理解すること、放射線について科学的に理解するとともに、科学的に思考し情報を正しく理解することが必要です。現在でも、PTA関係者をはじめとする保護者、地域住民の方々が、教育委員会・学校と連携して、被災地の状況や放射線に関する理解を深めようとする取組が進められています。引き続き、保護者、地域住民の方々と教育委員会・学校が連携し、子供たちにおけるいじめをなくす取組を行っていただきますようお願いいたします。

被災者の立場に立った思いやりのある行動を

家族や財産などを失うという痛みを抱える被災者が、避難先で差別を受けたらどんな気持ちになるのでしょうか。被災者の立場に立ち、思いやりと配慮のある行動に心がけることが大切です。





「広報おおがき」などで募集した、心温まる「ちょっといい話」をご紹介します。

お客さんの一声

私は現在、飲食店でアルバイトをしています。人と関わることが好きだったため接客は笑顔で元気に行い、商品の提供も丁寧にできるような心がけていました。ですが、初めてのアルバイトということもあり、努力していてもなかなか仕事がうまくできず、店の人に何度も怒られていました。

そんな中、ある日お店で作業をしていた時にいらっしゃったお客さんが、「新人さんなのにすごくがんばってるね。大変だと思うけどこれからもがんばってね。」と声をかけてくださいました。すごく心が温かくなりました。私のがんばりを見てくださったそのお客さんに感謝の気持ちを持ち、これからもがんばりたいと思いました。

(木戸町 M.Wさんより)

大垣市人権のまちづくり懇話会委員のコメント

慣れないアルバイトを前向きに笑顔でがんばっている姿は、きっと眩しく見えたのでしょう。褒められると嬉しくなり、やる気も倍増しますよね。声をかけてくださったお客さんも、人を素直に応援できる素敵な方ですね。初心を忘れずに感謝の気持ちをもってこれからもがんばるM.Wさんに私も清々しい気持ちになりました。

みなさんが見た・体験した「ちょっといい話」を、人権擁護推進室へお寄せください。応募された方には、人権啓発グッズをプレゼントいたします。



人権創作劇が上演されました

令和3年11月30日(火)に、大垣特別支援学校(西大外羽)で人権創作劇が行われ、高等部の生徒33人が鑑賞しました。人権創作劇は、児童・生徒に「人権」をわかりやすく伝えるため、大垣人権擁護委員協議会の委員が自ら演じる劇です。新型コロナウイルス感染症の影響により休止していましたが、感染症対策のもと、久しぶりの上演となりました。

この日の演題は「だいじょうぶ だいじょうぶ」。祖父に助けられて育ったけれど、今度は年をとった祖父を助けるお話です。上演後には、法務省の人権イメージキャラクターの人KENまもる君と人KENあゆみちゃんが登場し、生徒たちに人権啓発グッズを手渡しました。



人権創作劇の一場面



人KENまもる君と人KENあゆみちゃん

第73回人権週間

国連で「世界人権宣言」が採択された12月10日は「人権デー」です。我が国では、毎年12月10日を最終日とする1週間(12月4日～10日)を人権週間として定めています。

令和3年12月4日(土)から始まった「第73回人権週間」に合わせ、12月5日(日)に、イオンタウン大垣で、岐阜地方法務局大垣支局と大垣人権擁護委員協議会の主催による、人権作品表彰式が行われました。

今年は、新型コロナウイルス感染症対策のもと、最優秀賞受賞者のみを招き、規模を縮小して実施されました。表彰式では、西濃圏域で募集された「中学生人権作文」及び「小学生人権書道及び人権ポスター」の最優秀賞受賞者が表彰されました。また、最優秀作文を受賞者自らが発表する朗読会も行われました。



人権作品表彰式



作文を朗読する受賞者

受賞作品は、人権週間の間、同会場で開催の「小学生人権書道・ポスター展」にて展示されました。



小学生人権書道・ポスター展



作品を鑑賞する来場者

このほか、市では、人権週間中にJR大垣駅の南北自由通路に人権啓発横断幕を掲出し、行き交う市民に、人権尊重のまちづくりの大切さを伝えました。



JR大垣駅南北自由通路での横断幕掲出